

朝あさ小学生新聞

はる かさ さき しあわ 春を重ねた先に幸せあれ

おおかわちく（宮城県石巻市）を舞台に映画 佐藤そのみさん

2011年の東日本大震災から、きょうで12年。宮城県石巻市の大川小学校（18年に閉校）では、津波で子どもや先生たち計84人が犠牲になりました。中学2年生だった佐藤そのみさん（26歳）は、妹のみずほさん（当時小6）を大川小で亡くしました。その体験を元に震災がテーマの映画を自主制作し、全国で上映会をしています。（小貫友里）＝3面に記事



佐藤そのみさん（2月25日、東京都調布市）

【東日本大震災と大川小】

2011年3月11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。死者・行方不明者は2万2千人以上（震災関連死者をふくむ）にのぼります。宮城県石巻市では震度6強または6弱を記録。84人が犠牲になった大川小では、子ども23人の遺族が市と県に賠償金を求める裁判を起こしました。18年、震災前の学校側の対策が不十分だったとした18年の仙台高等裁判所の判決が確定しました。



津波の被害にあい、今は震災遺構となっている旧大川小の校舎＝2021年7月、宮城県石巻市

優しかった小6の妹、津波の犠牲に

あの日、自宅にいた佐藤さん。大きなゆれがきて「立っっていられなかった。戦争か、地球がおかしなことになったのかと思っただ」とふり返ります。家族と高台へ避難。自宅は無事で、11日の夕方にはもどりました。みずほさんは学校にいたので大丈夫だと思っっていました。13日、母と車で学校までむかえに行く途中、通行止めに。そこから校舎が見えませんでした。「周りにたくさんあった家やお店がない。一面茶色くて。20人くらいがおびえた

り、泣いたり、いのちたりしながら学校の方を見ていました」。地震から約50分後、学校のそばの川を津波がさかのぼり、8・6メートルの高さまでおし寄せていたのです。子どもたちは先生の指示で校庭に避難して、そばには登れる山もありましたが逃げられませんでした。地域の人がきて、母に「みずほちゃん、あがったよ」と話しかけました。「母が泣きくすれて意味がわかって。私も立てな



映画「春をかさねて」の一場面
Copyright:Sho

映画「春をかさねて」（2019年、45分）は、津波で妹を亡くした14歳の主人公と幼なじみとのすれちがいや友情をえがいた作品。ノンフィクション映画「あなたの瞳に話したら」（19年、29分）は、大川小で友人や家族を亡くした3人の若者が、その後、考えてきたことを語ります。上映会の情報は佐藤さんのサイトで。
<https://aruherufilm.tumblr.com/>

悲しいだけの場所ではないふるさとを撮る

佐藤さんは、震災の前から地元・大川を舞台に映画をとりたいと思っっていました。震災後、校舎を見に行くたびに思い出がよみがえり、大川小をテーマにした作品を考えるようになりました。大学で映画制作を学び、大川で創作映画とドキュメンタリー映画を撮影しました。作品に大川の風景を切り取ったシーンや、アシの原で遊ぶ子どもたちのシーンが出てきます。大川は悲しい場所と取り上げられることが多いけれど、えがかれていないことをえがきたかった。大川には美しい自然と、子どもをみんなで見守るような安心感があったといいいます。昔を思い出し、「地元の人